

# 八重山毎日新聞

THE YAEYAMA MAINICHI SHINBUN

1月27日 土曜日  
2001年(平成13年)

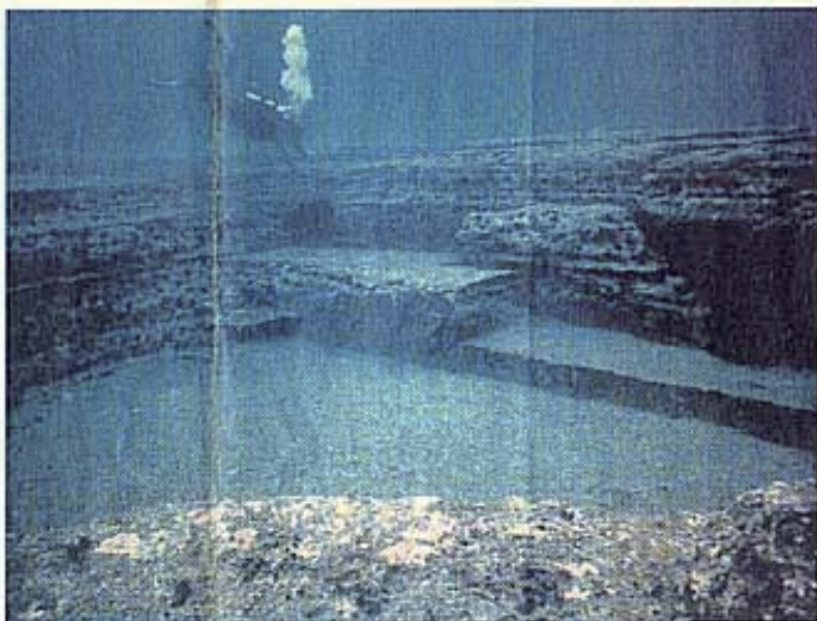
●発行所●  
八重山毎日新聞  
〒907-0004 沖縄県石川市宇留野城8-14  
月曜休刊(料1,700円 本紙1,620円 消費税80円)



海をあなたどるな!  
海の総合スーパー  
八島店  
☎2-8890

与那国の  
海底遺跡

## ITで世界にPRへ



海底遺跡をITを活用して世界にPRしていくことになる。

第2回海底観光資源調査委

### 年度内に報告書作成 台湾からの誘客に力点

「海底遺跡」と呼ばれる海底地形を観光資源として開発していく方策を話し合っている厚良町  
海底観光資源調査委員会(委員長・由良安徳町教委社会教育課長、大心の第2回委員会が二  
十六日午後、八重山支庁で開かれた。今年三月末にまとめる報告書に、観光資源開拓に向けた理  
言をどのように盛り込むか話し合った結果、「海底遺跡」を「ムナ大陸」にならざるで神秘性を  
強調し、インターネット等のIT(情報通信技術)を活用して世界にPRしていく方針を確認  
した。特に台湾からの誘客に力を入れるよう提案する。委員中何れも第三回委員会開いて報告書  
の内容を確認し、翌の観光開拓に生かしていく。

同委員は、「タイピング  
船の発着施設に不備があ  
る」(各町)として遊覧船の  
必要性を重視。町民が「海  
底遺跡」について学んだ  
り、ダイバーたちに便を  
図る「シャワーセンター  
(仮称)を断立施設として  
整備していく」案も委員  
言が盛り込む。同委員は、  
「海底遺跡」と島内の陸上  
地形との関連性も紹介し、  
陸上部分の観光資源開発に  
もつながっていく。

建設場所は久留良漁港内  
や厚良町空港周辺、「海底  
遺跡」に近い新川島周辺な  
どを想定しており、「タイ  
ピング公園(仮称)」の併設  
も案内している。

調査方法は、二〇〇一年  
度以降、同委を発足させた  
沖繩観光コンベンション  
協会(以下、協会)と連携し  
て世界にPRしていくこ  
とになった。

「海底遺跡」を活用した  
観光資源は、新たな土産  
品の開発や、観光客の目  
的・観光の多様性を増進  
させる効果がある。

また、調査した「海底  
遺跡」一帯の観光資源の  
調査・開発した十分な安全  
対策や宿泊施設を確保し  
入る観光客の増加、「海底遺  
跡」一帯を観光資源の充  
実と目指していく。

同委員は、「海底遺跡」への  
関心が高まっている。こ  
をきっかけ、OVBが観光  
資源としての活用を促進  
しようと、昨年十月に発  
足した、厚良町内第一  
回観光資源調査委員会  
の発足を歓迎している。

OVBが調査対象地とし  
たため、委員が調査対象  
地を選んだ。

# 「ムー大陸・海底遺跡探訪の旅」

## 誘客のキヤッチコピーに

### 観光資源 調査委 活用の基本方針確認

「海底遺跡」と評はれる海底地形を観光地として活用を模索している与那国郡観光振興調査委員会（委員長・東浜安伸町教育委員会教育主事、大心）の第3回調査委員会が6日午後、八重山支庁本部で開かれた。今日までに3回開かれた調査委員会の内容を確認し、「謎（なぞ）のムー大陸・海底遺跡探訪の旅」をキヤッチコピーにして、「海底遺跡」を与那国や八重山の観光振興に活用していく基本方針を確認した。同委員会の中野朝光（なかのあさひ）コーディネーター（OCC）は「この日の委員会では、本年度『海底遺跡』観光に取り組み始めるための具体的な課題をモニタリングの活用を模索する機会を創出した市民への啓蒙活動、普及の取り組み（ムー）」「調査委員会」を導いた情報発信を模索していく考えを明らかにした。

### 商品 開発 関連施設整備も提言

情報調査委員（17）を  
活用したPRや白紙な多  
国からの観光客の必要に  
も盛り込んだ。  
「海底遺跡」を文化・学  
術研究へ設立する方針で



「海底遺跡」を与那国や八重山の観光振興に活用していく基本方針を報告書に盛り込むことを確認した第3回与那国郡観光振興調査委員会

同報告書は「基本的な考  
え方」として、「海底に新  
しい（なぞ）の遺跡」とい  
うイメージを指すことな  
く、観光地を指すというよ  
うに一層イメージをイ  
メージを膨らませたいこ  
とが肝要」と指摘。  
そのうえで、関連施設と  
して、展示や休憩所、喫茶  
室、売店を整備する。海底  
観光センターをセンター  
（観光）やダイバー向けの  
設備を持った「ダイビング  
公園」の必要性を強調。  
「海底遺跡」には、なん  
でも開発しては、ダイビング  
マニアやガイドブック、C  
D-ROM、キヤッチコー  
ピーなどを準備しているほ  
う、特設のムーに「初





国際展示会に出品される通称「イノシシ石」(テーブル上の向こう側)などの複製品を持って、尾辻吉兼町長(左から2人目)を訪ねた新嵩喜八郎さん(左端)ら=町役場

# 「海底遺跡」の石を出品へ

## オーストリアの展示会で紹介

与那国町

世界各地の遺跡で見付かった出土品のなかから、美術的に価値の高い三百点を集めて、オーストリアで二十二日に開幕する展示会に、与那国島の「海底遺跡」周辺で見付かった石二点が

出品される。実物大の複製品は近く、町役場庁舎内で公開する計画で、第十二回日本最西端与那国島国際カシキ釣り大会(与那国町主催)が開かれる五十八日には、久部良多目的集会施設

で公開する。この展示会は、「未解明のなぞ」をテーマに三カ月間、リンツ市美術・博物館で開かれる。日本からは、青森県の三内丸山遺跡の縄文土器も出品する。

「海底遺跡」からは、十字やV字などが彫られた「線刻石板(せんごくせきばん)」と、動物のレリーフが刻まれた通称「イノシシ石」を出品。「海底遺跡」を調査している木村政昭琉

大教授(海洋考古学)によると、約一万年前のものと推定されるといふ。木村教授は二十二、二十三日の両日、会場で開かれるシンポジウムに出席し、これまででの研究について報告することになっている。実物大の複製品は十四日、木村教授の研究に協力している与那国町祖納の新嵩喜八郎さん(まご)に届けられ、新嵩さんらは十五日午前、町役場で尾辻吉兼町長らと展示方法について話し合った。

大教授(海洋考古学)によると、約一万年前のものと推定されるといふ。木村教授は二十二、二十三日の両日、会場で開かれるシンポジウムに出席し、これまででの研究について報告することになっている。実物大の複製品は十四日、木村教授の研究に協力している与那国町祖納の新嵩喜八郎さん(まご)に届けられ、新嵩さんらは十五日午前、町役場で尾辻吉兼町長らと展示方法について話し合った。

